

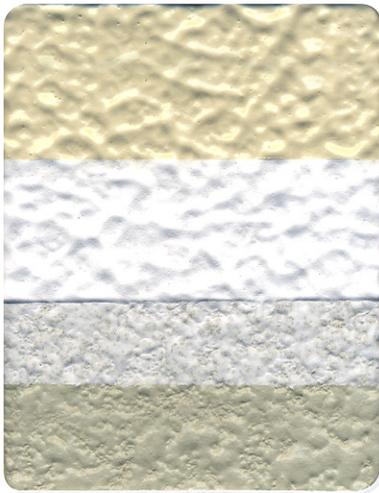
COOLな屋根には、  
COOLな外壁を。



ALES COOL  
+<sup>plus</sup> WALL

外壁用 遮熱断熱工法  
アレスクール プラスウォール

 KANSAI  
PAINT



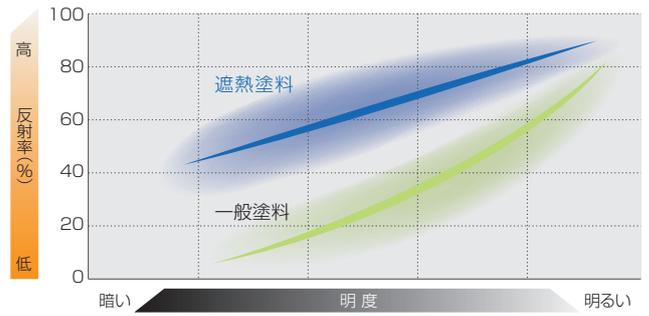
◀アレスクール  
プラスウォール水性Si

◀アレスクール  
プラスウォール中塗

◀アレス水性エポレジ

◀吹付タイル

### ■塗膜の明度と日射反射率の関係



COOLレベル  
日射反射率※

① ② ③ ④ ⑤	80%以上	① ②	50~60%
① ② ③ ④	70~80%	①	40~50%
① ② ③	60~70%		

※一般塗料との日射反射率の比較は、「塗膜の明度と日射反射率の関係」のグラフをご参照ください。

### 標準色ラインナップ



AW-001

COOLレベル



AW-002

COOLレベル



AW-003

COOLレベル



AW-004

COOLレベル



AW-005

COOLレベル



AW-006

COOLレベル



AW-007

COOLレベル



AW-008

COOLレベル



AW-009

COOLレベル



AW-010

COOLレベル



AW-011

COOLレベル



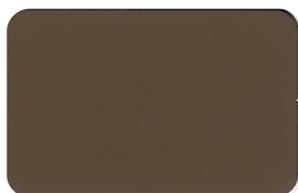
AW-012

COOLレベル



AW-013

COOLレベル



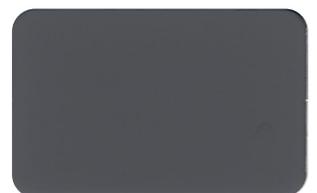
AW-014

COOLレベル



AW-015

COOLレベル



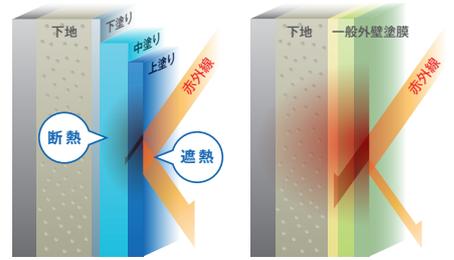
AW-016

COOLレベル



※この色見本は紙に塗装していますので、実際の色・ツヤが異なる場合があります。※塗料の種類により同じ色相でも色・ツヤが異なる場合があります。※広い面積に塗られた場合、実際の色よりも多少明るく見える場合があります。※この色見本の有効期限は印刷年月(印行裏面記載)より5年です。※色見本は経時劣化により変色していきますので、直射日光の当たる場所や高温多湿の場所には保管しないでください。※日射反射率は「JISK5602塗膜の日射反射率の求め方」に準拠し、水性エポレジ/アレスクールプラスウォール中塗り/アレスクールプラスウォール水性Siで日射反射率(近赤外領域)を実測しています。※日射反射率は下地の状態や塗装仕様、施工条件などにより多少の増減が生じます。

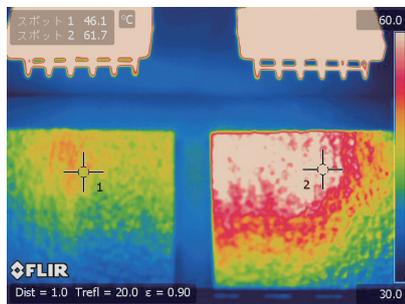
# 『遮熱』と『断熱』のWブロック効果で 人と建物にやさしい外壁に。



## COOLな壁は 赤外線を反射する

遮熱効果とは、太陽光線（赤外線）を効率よく反射し、外壁の塗膜表面温度上昇を抑制することです。それにより素材の蓄熱を抑え、熱による素材の劣化を防ぎます。

### ■ ハロゲンランプ照射実験例（サーモグラフィ画像）

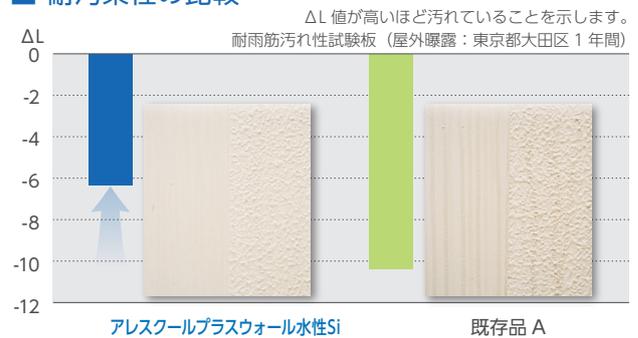


一般壁用塗料と「アレスクールプラスウォール」の塗板にハロゲンランプを照射して表面温度を確認しました。この実験では、表面温度で約15.6°Cの温度低減効果が確認できました。（塗色：AW-016）

## COOLな壁は 低汚染で汚れにくい

緻密かつ強靱な塗膜形成技術で開発された防汚性能が建物の美観を維持します。また、汚れによる遮熱効果の低下を抑制し、性能の長期維持を図ります。グラフでは雨筋が発生していないことと色味の変化が少ないことが分かります。

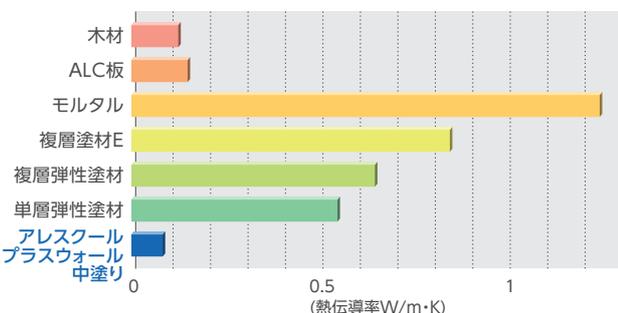
### ■ 耐汚染性の比較



## COOLな壁は 熱を伝えにくい

特殊な成分を用い熱伝導率を小さくすることで、素材表面に蓄積された熱や外気からの熱を室内に伝えにくくします。従来単層弾性材と比べ熱伝導率約5分の1の断熱効果を発揮します。（当社比）

### ■ 熱伝導率の比較

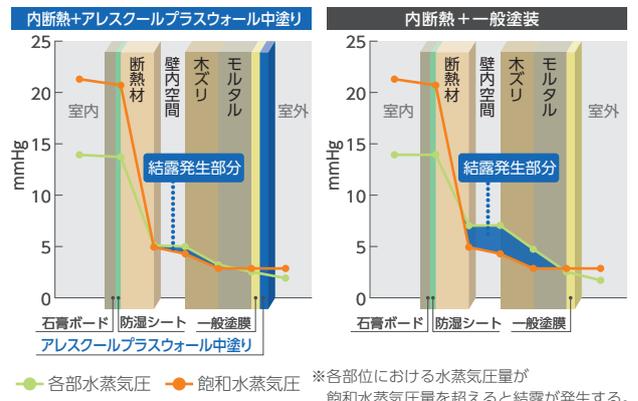


熱伝導率とは 熱の伝わりやすさを数値化したもので、熱伝導率の数値が小さいほど熱を伝えにくく断熱性が高いことを示します。

## COOLな壁は 壁内結露を軽減する

構造木材を水分から守り様々な効果を発揮。壁内断熱材の含水によるズリ落ちの抑制や木部の腐朽、カビ・ダニやシロアリの発生などを軽減し、内断熱工法（RC造）や充填断熱工法（木造）の性能補強につながります。

### ■ 壁内結露の比較



## ■ 品名・容量

工程	品名	色相	光沢	容器
上塗り	アレスクールプラスウォール 水性Si	各色	有	15kg、4kg
中塗り	アレスクールプラスウォール 中塗り	白	つや消し	14L
下塗り	エコカチオンシーラー	乳白色	—	15kg
	アレス水性エポレジン	白	—	15kgセット（ベース12.5kg、硬化剤2.5kg）

# アレスクールプラスウォール

- 下記仕様書の標準所要量は、被塗物の形状や素材・塗装方法・環境などによって増減することがあります。
- 吸い込みの著しい素材の場合、再度シーラーの増し塗りを行ってください。
- コンクリート、モルタル素地には、「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」、「アレス水性エポレジン」、「浸透形Mシーラー」も使用可能です。

## ■ コンクリート、モルタル系素地【5工程遮熱断熱仕様】

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)
下地調整	新設	エフロ・レタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面にしてください。 ※コンクリートブロックのような吸い込みの著しい素材の場合、フィラーなどの下地調整が必要です。					
	塗替	劣化塗膜をケレン工具(皮スキ・ケレン棒等)で完全に除去し、ホコリ・汚れ・チョーキング粉を高圧水洗で除去してください。 ※旧塗膜中の活膜部はサンドペーパー等で目粗してください。					
下塗り	エコカチオンシーラー または アレス水性エポレジン	1~2	0.13 0.17	ハケ・ローラー エアレス	2時間以上7日以内	—	0(無希釈)
		1~2	0.13~0.20 0.17~0.20	ハケ・ローラー エアレス	4時間以上7日以内	上水	0~10 10~15
中塗り	アレスクールプラスウォール中塗	2	0.70~1.00	多孔質ローラー	4時間以上7日以内	上水	0~5
		1 ベース吹き	0.80~1.10	タイルガン(口径6mm)			2~5
		2 パターン吹き	0.75~1.00	タイルガン(口径6~8mm)			0~3
上塗り	アレスクールプラスウォール水性Si	2	0.13 0.16	ローラー エアレス	2時間以上7日以内	上水	3~8

## ■ 窯業系サイディングボード【5工程遮熱断熱仕様】

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)
下地調整	窯業系サイディングボードのクラック・ボード面の脆弱層のクラックなどは適切な処置を行ってください。劣化塗膜やチョーキング・汚れなどを高圧水洗にて除去し、乾燥した清浄な面にしてください。シーリングはシーリングメーカーの規定する期間養生させ、十分に硬化、乾燥していることを確認してください。						
下塗り	アレス水性エポレジン	1~2	0.13~0.20 0.17~0.20	ハケ・ローラー エアレス	4時間以上7日以内	上水	0~10 10~15
中塗り	アレスクールプラスウォール中塗	2	0.70~1.00	多孔質ローラー	4時間以上7日以内	上水	0~5
		1 ベース吹き	0.80~1.10	タイルガン(口径6mm)			2~5
		2 パターン吹き	0.75~1.00	タイルガン(口径6~8mm)			0~3
上塗り	アレスクールプラスウォール水性Si	2	0.13 0.16	ローラー エアレス	2時間以上7日以内	上水	3~8

## ■ コンクリート、モルタル系素地【3工程遮熱仕様】

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)
下地調整	新設	エフロ・レタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した清浄な面にしてください。 ※コンクリートブロックのような吸い込みの著しい素材の場合、フィラーなどの下地調整が必要です。					
	塗替	劣化塗膜をケレン工具(皮スキ・ケレン棒等)で完全に除去し、ホコリ・汚れ・チョーキング粉を高圧水洗で除去してください。 ※旧塗膜中の活膜部はサンドペーパー等で目粗してください。					
下塗り	エコカチオンシーラー または アレス水性エポレジン	1~2	0.13 0.17	ハケ・ローラー エアレス	2時間以上7日以内	—	0(無希釈)
		1~2	0.13~0.20 0.17~0.20	ハケ・ローラー エアレス	4時間以上7日以内	上水	0~10 10~15
上塗り	アレスクールプラスウォール水性Si	2	0.13 0.16	ローラー エアレス	2時間以上7日以内	上水	3~8

## ■ 窯業系サイディングボード【3工程遮熱仕様】

工程	塗料名・処置	塗装回数	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤	希釈率 (%)
下地調整	窯業系サイディングボードのクラック・ボード面の脆弱層のクラックなどは適切な処置を行ってください。劣化塗膜やチョーキング・汚れなどを高圧水洗にて除去し、乾燥した清浄な面にしてください。シーリングはシーリングメーカーの規定する期間養生させ、十分に硬化、乾燥していることを確認してください。						
下塗り	アレス水性エポレジン	1	0.13~0.20 0.17~0.20	ハケ・ローラー エアレス	4時間以上7日以内	上水	0~10 10~15
上塗り	アレスクールプラスウォール水性Si	2	0.13 0.16	ローラー エアレス	2時間以上7日以内	上水	3~8

### 施工上の注意事項

- ① 素地のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下(ケツ科学社製CH-2)、または5%以下(ケツ科学社製HI-500シリーズ:コンクリートレンジ)の条件で塗装してください。
- ② 塗替の場合、旧塗膜の劣化が著しいときは、サンダー・ワイヤーブラシなどで脆弱な塗膜を除去し、高圧水洗を行い1日乾燥後、塗装してください。
- ③ 気温5℃以下、湿度80%以上、また、降雨、降雪、強風が予想される場合は、塗装を中止してください。
- ④ 気温0℃以下、40℃以上での塗料の保管は避けてください。
- ⑤ 本品は屋根への適用はできません。
- ⑥ 5工程仕様の場合、金属サイディング面及び弾性スタッコ面の塗替には使用できません。
- ⑦ 旧塗膜がスタッコのような場合は、各工程の塗料を十分に塗り込んでください。
- ⑧ 下地補修部へ対しては、必ずシーラー塗装を行ってください。
- ⑨ 脆弱な下地などには浸透形Mシーラーを使用してください。
- ⑩ シーラーの吸い込みが著しい場合には、再度シーラーを増し塗りしてください。
- ⑪ 軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業系サイディングおよび発泡ウレタンなどを使用した断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なることで、塗膜のふくれが生じることがあります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、下塗に「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」を塗装してください。
- ⑫ 開閉後、放置する場合には皮が張らないようポリエチレンシートなどを用いて、密閉してください。
- ⑬ 乾燥すると養生テープを剥がしにくくなりますので、塗膜が乾燥する前に養生テープを剥がしてください。乾燥後に養生テープを剥がす場合にはカッターなどでカットした後に、テープを取り外してください。
- ⑭ 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- ⑮ ハケ塗りで補修塗りを行う際、ローラー塗りとの仕上り肌や希釈率の違いによる色相差が生じることがありますのでご注意ください。
- ⑯ 「アレス水性エポレジン」、「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」はベースと硬化剤がセットになっている2液形塗料です。ベース、硬化剤は正確に計量し、電動攪拌機を用いて、よくかき混ぜてから使用してください。また、ベース/硬化剤を混合後4時間以内で使用してください。夏場の場合は2時間程度で使用できなくなります。
- ⑰ サイディングボードに既に反り、欠落、変形が発生している場合には、サイディングボードを取り替える必要があります。
- ⑱ シーリング材とサイディングボードとの接合面に、剥がれ、ウキが認められる場合には、シーリング材を打ち直してください。
- ⑲ シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、フレの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、「シープラ」または「マルチタイルコンクリートプライマー-EPO」をバインダーとして挟むことで不具合を軽減することができます。
- ⑳ コンクリート、モルタル系素地には「エポMシーラー」も使用できます。

- ラベルやSDSに記載されている注意事項を守ってください。
- 詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ  
www.kansai.co.jp

北海道 TEL(0133)64-2424 FAX(0133)64-5757  
東北 TEL(022)287-2721 FAX(022)288-7073  
関東圏 TEL(028)637-8200 FAX(028)637-8223

東京 TEL(03)5711-8905 FAX(03)5711-8935  
中部 TEL(052)262-0921 FAX(052)262-0981  
大阪 TEL(06)6203-5701 FAX(06)6203-5603

中国 TEL(082)262-7101 FAX(082)264-3285  
四国 TEL(0877)24-5484 FAX(0877)24-4950  
九州 TEL(092)411-9901 FAX(092)441-3339

※製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますのでご了承ください。

(20年03月08日PNA) カタログNo.717  
頒布価格 1,500円(税込)